

令和7年5月15日

報道機関配布資料

件名 令和7年度危険箇所総点検の実施について

本市では、平成26年度から土砂災害や水害、大規模地震に備えるため、危険箇所総点検を実施しております。

今年度も、例年実施している河川等の点検を実施し、継続的な監視に努めるほか、小中学校をはじめとする指定避難所周辺の危険箇所の点検を実施し、防災意識の高揚と災害時への備えを強化してまいります。

また、例年、危険箇所総点検の初日に行っております市長の現地視察にあわせて、今年度は、大類小学校の児童を対象に防災学習を実施いたします。市職員による一貫堀川の河床点検や「ドローン」を活用した点検の様子を見学いただき、危険箇所総点検の必要性和防災に対する取り組みを学習していただきますので取材していただきますようお願いいたします。

なお、今年度は新たな取り組みとして、河川の河床点検やドローンを活用した点検の様子を点検の種類ごと（河川の点検、急傾斜地の点検等）に分けYouTubeにアップし、若い世代の方々にも点検の様子をご覧いただき、防災への関心を高めることで、更なる防災啓発に努めてまいります。

記

1 令和7年度総点検の内容

職員延べ1,788人を動員し、資料1「令和7年度危険箇所総点検計画書」のとおり実施します。

- 1) 期間 令和7年5月20日から約2か月間
- 2) 過去の点検内容 資料2「これまでの危険箇所点検」のとおり

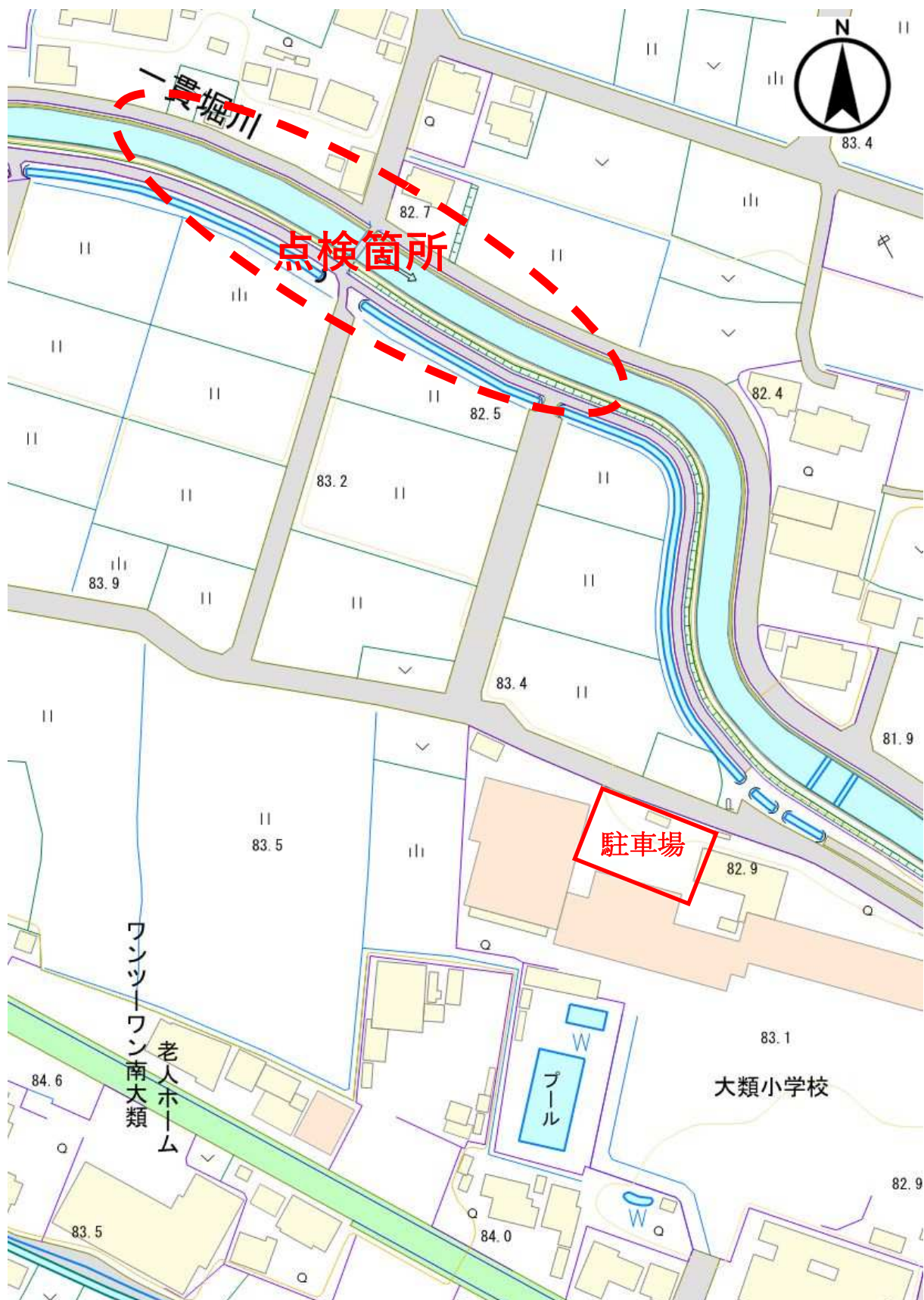
2 現地視察及び防災学習

- 1) 日時 令和7年5月20日（火）午後2時00分から
- 2) 場所 高崎市立大類小学校北側 一貫堀川
- 3) 参加者 市長、地元区長、大類小学校児童、保護者等
- 4) 駐車場 大類小学校駐車場（裏面のとおり）

○問い合わせ先 総務部防災安全1課

直通 027-321-1325

< 現地視察及び防災学習 取材車両駐車場案内図 >



令和7年度危険箇所総点検計画書

部局名	点検内容	点検対象	点検箇所数	点検体制	延べ人数
建設部	河川等の点検 ・ 中小河川内の土砂堆積、立木の確認 ・ 堤防や護岸の破損状況の確認 ・ 調整池の土砂堆積の確認 【※ドローンを活用した点検を実施】	(高崎) 井野川、一貫堀川、榛名白川等 (支所) 鍋川、相間川、東谷川 等	151河川	1班2名×4班×20日 1班2名×6支所×20日	400名
	浸水箇所点検 ・ 近年、浸水報告のあった地区の区長聞き取り	浸水報告のあった町内	40町内	1班2名×40箇所	80名
	住宅団地の擁壁等点検 ・ 傾斜地の住宅団地における擁壁の再調査、確認	擁壁 観音山丘陵周辺の11団地の訪問による再調査	11団地	1班2名×2班×25日	100名
	地下道（アンダーパス）の点検	地下道（アンダーパス）	16箇所	1班2名×1班×10日	20名
	土砂災害危険箇所点検 ・ 山裾、傾斜地の人家、集落周辺の点検 ・ 法面保護施設等の点検 【※ドローンを活用した点検を実施】	・ 急傾斜地等特別警戒区域の要観察箇所 ・ 道路両側法面の要観察箇所	762箇所	1班2名×3班×20日間 1班2名×4支所×20日間	280名
	指定避難所周辺危険箇所点検 ・ 避難の際に支障になり得る箇所の点検	・ 避難所周辺の河川や水路、道路の段差や亀裂、斜面の異状	120箇所	1班2名×3班×10日間 1班2名×6支所×10日間	180名
都市整備部	・ 公園樹木の幹・根の腐食状況 ・ 枯木・折枝の確認 ・ 外灯等支柱の状況確認	(高崎) 187公園 (支所) 164公園	351公園	1班2名×6班×12日 1班2名×6支所×5日	204名
	・ 街路樹の幹・根の腐食状況 ・ 枯木・折枝の確認	(高崎) 26路線 (支所) 31路線	57路線	1班2名×2班×6日 1班2名×3支所×3日	42名
農政部	農業用水路の点検 ・ 土砂等堆積、阻害物等の確認、除却作業 ・ 取入口の護岸等の確認	主要幹線・枝線用水路 (高崎) 50用水路 (支所) 16用水路	66用水路	1班2名×4班×20日 1班2名×6支所×10日	280名
	農業用水門の点検 ・ 水門施設動作状況の確認 ・ 水門施設周辺阻害物等の確認 【※ドローンを活用した点検を実施】	(高崎) 河川12系統46水門 (支所) 河川9系統24水門	70水門	1班2名×4班×3日 1班2名×6支所×2日	48名
	ため池の点検	(高崎) ため池 9箇所 (支所) ため池 44箇所	53箇所	1班2名×4班×15日	120名
	林道点検	(高崎) 4路線5.6km (支所) 43路線93.1km	47路線	1班2名×1班×1日 1班2名×4支所×2日	18名
	森林転用箇所点検	・ 林地開発施行中箇所 ・ 前年度伐採届受理箇所及び指導箇所	17箇所	1班2名×2班×4日	16名
計			1,761箇所		1,788名

これまでの危険箇所総点検

【平成 26 年度】

主要テーマ	土砂災害等災害防止緊急点検
動員職員数	延べ 629 名
点検内容	災害の誘因となる台風や集中豪雨、地震等の自然災害が発生した場合に備え、危険と思われる箇所（土砂崩れ、河川氾濫、樹木の倒木、水門等）について総点検を実施した。
対応（成果）	約 4,990 箇所の点検の結果、市道の擁壁クラックや目地などの補修、道路側溝の補修、水路改修、樹木撤去など、58 箇所で対応工事等を実施した。

【平成 27 年度】

主要テーマ	（水害）危険箇所総点検
動員職員数	延べ 1,030 名
点検内容	26 年度に実施した点検内容に加え、特に集中豪雨や台風等による浸水や洪水など、水害に備えるため、過去の浸水箇所等のデータを基に区長から聞き取り調査を実施した。
対応（成果）	5,062 箇所の点検の結果、浸水対策工事や農業用水路の補修など、154 箇所で対策を実施した。

【平成 28 年度】

主要テーマ	（地震対策）危険箇所総点検
動員職員数	延べ 1,704 名
点検内容	熊本地震の発生を受けて、犠牲者の多くが倒壊した家屋の下敷きになって亡くなられたことを踏まえ、旧耐震基準の木造住宅や倒壊の恐れがある塀や看板の総点検を実施した。
対応（成果）	住宅の耐震化を促進するため「緊急耐震対策条例」を制定し、災害時に倒壊のおそれがある屋根や塀、広告塔、擁壁などの改修工事に対する助成制度を新設した。

【平成 29 年度】

主要テーマ	水害危険箇所総点検
動員職員数	延べ 1,146 名
点検内容	長雨や集中豪雨、台風等による河川や排水路、農業用水路などの氾濫防止対策を主なテーマとして、河川等の堆積物や水門等の危険箇所の総点検を実施した。
対応（成果）	約 6,400 箇所の点検の結果、浚渫等の対応を行ったほか、榛名白川の堆積土砂や立木の撤去を県に要望し、その結果、県において浚渫工事が行われた。

【平成 30 年度】

主要テーマ	水害危険箇所総点検
動員職員数	延べ 1,522 名
点検内容	長雨や局所的な集中豪雨により水位が上昇する傾向にある中小河川に着目し、排水路、農業用水路など含む中小河川の氾濫防止対策を主なテーマとして総点検を実施した。
対応（成果）	約 5,200 箇所の点検の結果、4 箇所で浚渫工事等の対応を行ったほか、榛名白川・雁行川などにおいては、堆積土砂や立木の撤去等を国や県に要望した。

【令和元年度】

主要テーマ	水害危険箇所総点検
動員職員数	延べ 1,544 名
点検内容	豪雨時に上流からの土砂流入に伴う河床の上昇により、複合的に発生する「中小河川の土砂・洪水氾濫防止対策」を主なテーマとして総点検を実施した。
対応（成果）	約 5,700 箇所の点検の結果、3 箇所で浚渫工事等の対応を行ったほか、烏川、榛名白川・雁行川などにおいては、堆積土砂や立木の撤去等を国や県に要望した。

【令和 2 年度】

主要テーマ	水害危険箇所（河川、用水路）総点検
動員職員数	延べ 1,518 名
点検内容	河川や排水路、農業用水路などの氾濫による浸水被害の防止をテーマに点検した。台風 19 号で浸水被害の多かった地区等の区長への聞き取り調査も併せて実施した。
対応（成果）	151 の河川や水路など約 5,300 箇所の点検の結果、浚渫工事をはじめ、樹木撤去などの対応を行った。

【令和 3 年度】

主要テーマ	①水害危険箇所（河川、用水路）総点検
動員職員数	延べ 1,648 名
点検内容	過去に浸水被害のあった地区を中心に、河川及び用排水路等が適正に機能しているか継続的な点検を行うとともに、台風 19 号で浸水被害のあった区長への聞き取りを実施した。
対応（成果）	151 の河川や水路など約 4,360 箇所の点検の結果、浚渫工事や、樹木の伐採、撤去などの対応を行った。

主要テーマ	②土砂災害危険箇所緊急点検
動員職員数	延べ 370 名
点検内容	7 月に静岡県熱海市で発生した大規模土砂災害を受け、山間部を中心に、土砂災害警戒区域周辺の大規模開発地や盛り土造成地などの土砂災害の緊急点検を実施した。
対応（成果）	土地造成地や山間部における大規模開発地において対策工事を行ったほか、林地開発や伐採届受理箇所においては、6 箇所すべてにおいて所有者への指導を行った。

【令和4年度】

主要テーマ	河川等氾濫防止対策及び土砂災害に関する総点検
動員職員数	延べ1,852名
点検内容	河川及び用排水路等が適正に機能しているか継続的な点検を行うとともに、昨年7月の熱海市の土砂災害を受け、山間部の大規模開発地や造成箇所などの点検を実施。 また、高所などの危険な場所や目視ができない場所などにおいて「ドローン」を活用し、これまでと異なる視点からの点検を実施。
対応（成果）	約4,260箇所の点検の結果、浚渫工事や、樹木の伐採、撤去などの対応を行った。 また、ドローンを活用した調査より、人が入ることが困難な場所も効果的な点検に繋げることができた。

【令和5年度】

主要テーマ	倉渕・榛名・吉井地域の山間部の土砂災害に関する点検
動員職員数	延べ1,652名
点検内容	近年、全国で土砂災害が発生していることを受け、倉渕・榛名・吉井地域の山間部を中心に、土砂崩れの痕跡や知面のひび割れ、斜面の異常などについて重点的に点検した また、河川氾濫を防ぐため、過去に浸水被害のあった地域を中心に、河川や用排水路などの点検も実施した。
対応（成果）	約1,361箇所の点検の結果、土砂災害危険箇所における法面保護、河川の浚渫工事や立木の撤去等を実施した。 また、急傾斜地警戒区域における砂防や法面保護、河川の浚渫や護岸整備について国、県に要望した。

【令和6年度】

主要テーマ	観音山丘陵を中心とした土砂災害に関する点検
動員職員数	延べ1,540名
点検内容	観音山丘陵を中心に、土砂崩れの痕跡や知面のひび割れ、斜面の異常などについて重点的に点検するとともに、過去に浸水被害のあった地域を中心に、河川や用排水路などの点検も実施した。 また、ドローンを活用した河川点検の様子を乗附小児童に見学してもらい、防災に対する取り組みについて学習してもらった。
対応（成果）	1,204箇所の点検の結果、土砂災害危険箇所における法面保護や擁壁修繕、河川の浚渫工事や立木の撤去等を実施した。